
最後のわがまま

友華...

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最後のわがまま

【NZコード】

N1434D

【作者名】

友華・・・

【あらすじ】

中学の卒業と共に終わりを告げた加奈と祐樹の恋。「2人が運命ならまたきっと出会える」そう信じて高校に入学した加奈に新たな恋が訪れる・・・ありがちな恋愛小説

プロローグ

どんな時も

あたしに手を差し伸べてくれたのは

あなたでした・・・

あなたの愛に

あたしはまだすきでしたよ・・・

「めんね・・・？」

春・・・

「ねえ祐樹。もしあたし達が運命ならさ、
また付き合つたりするのかな？」

そんなあたしの言葉に、

祐樹は困ったように笑う。

「『めん。祐樹、元気でね・・・』

「加奈も。幸せになれよ」

中学校の卒業式、

校内で一番大きいと言われている桜の木の下で、

あたし達は恋人と言つ関係に終止符を打つた。

寂しさを隠し切れないあたしとは裏腹に、

祐樹の表情はどこかすつきりしたように晴れ晴れとしている。

「バイバイ」

どちらからともなく
自然に出たその言葉と共に、
あたし達は別々の道を歩き出す。

あたしはやつぱり名残惜しくて、そつと振り返る。
小さくなつていく祐樹の背中。

振り返ることもなく、ただまつすぐ前に進んでいく。
祐樹の姿が見えなくなると、
なぜか無性に悲しくなつて涙がこぼれた。

「バイバイ、祐樹」

前に向き直り、
ゆっくりと歩いていく。

祐樹との出会いは中学2年の夏。
夏休みの終わりと同時にこの学校へ転校してきたあたしは、
まだあまりクラスに馴染めていなかつた。
とゆうより、みんなに避けられていた。

理由は、当時のあたしの見た目。

前の学校が校則などないも同然だつたために
髪は赤く、目には濃いライン。

スカートは膝丈が常識のこの学校で、
超がつくほどミニスカート。

転校早々、

先輩からも一目をおかれる存在になつていたあたしは、
すっかり浮いた存在になつっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1434d/>

最後のわがまま

2010年12月11日14時33分発行